

両陛下の 温かいお心に触れて

昭和21年に満州からの引揚者によって開墾された千振地区。天皇后両陛下は、戦後60年にあたる平成17年に千振を訪問なさり、初代入植者18名と懇談されました。その10年後の平成27年、両陛下は再び千振を訪問され、6名の入植者との再会をお果たしになりました。「10年前に会った人々にもう一度会いたい」という両陛下のご希望により実現したといえます。

引揚げの壮絶な体験、入植後の開拓の苦労にお心を寄せ続けられた両陛下との懇談について、同席した中込敏郎さんに伺いました。



中込敏郎さん（千振）

大正15年山梨県生まれ。昭和14年に一家で満州に渡り、千振開拓団に参加。戦後、那須に開拓入植し、酪農を始める。千振開拓農業協同組合長、全国開拓振興協会会長を歴任。那須町議会議員を4期、うち2年間は議長を務め、町の発展にも尽力。平成22年春、旭日双光章受章。同年秋の園遊会の招待を受けました。

平成17年のご懇談



写真提供 千振開拓農業協同組合

はじめはとても緊張して、何を話したか覚えていないくらいです。しかし、開拓記念碑をご案内した際、裏側に刻まれた建立当時の組合員名簿を皇太后陛下がご覧になり、「中込さんのお名前がありますね」とお声がけいただき、すっかり緊張がほぐれたのを覚えています。その後も、とても気さくに話しかけてくださいました。公民館では、昭和8年に千

振開拓団が高松宮殿下（昭和天皇の弟君）からいただいた、団旗として大切に持ってきた日章旗をご覧に入れました。色あせた日章旗を、陛下は感慨深くご覧になっていました。

平成27年のご懇談

初代入植者もすっかり減ってしまった懇談となりましたが、その中で、天皇陛下と私が同じ国語の教科書を使っていたことが話題に上がりました。小学校1年生で初めて習う「サイタサイタサクラガサイタ」という文章を陛下も私もよく覚えていて、共通の話題があることに親しみを感じました。お互い高齢となり、私は隠居の身となりましたが陛下は当時も激務をこなしていらっしやう。ご退位後はゆっくりと休養いただきながら、いつかまたお会いできる日が来ることを願っています。

両陛下の温かいお気持ち

天皇后両陛下はそれぞれ、その年の記者会見で次のように述べられています。天皇后陛下は、平成27年に宮城県北原尾、千振、長野県大日向のご訪問を「外地での開拓で多大な努力を払った人々が、引き揚げの困難を経、不毛に近い土地を必死に耕し、家畜を飼い、生活を立てた苦労がしのばれました。」と振り返られました。皇后陛下は、平成17年のご訪問について、当時中学2年生だった眞子様のご同行について、「初期に入植した方たちが、穏やかに遠い日々の経験を語って下さり、眞子様がやや緊張して耳を傾けていた様子が、今も目に残っています。」と語られました。2度の懇談は、入植者を労い、戦争を知らない世代に過去の事実を正しく継承なさっていく両陛下のお気持ちがよく伝わり、町民にとっても、本町の歴史を改めて知る良い機会となりました。

町は今後も関係機関と連携し、豊かな自然を守りながら、万全の体制で皇室の皆さまをお出迎えられるよう努めます。町民の皆さんとともに、御用邸を有する町として、誇りあるまちづくりを進めていきます。